

ウイークエンド

わが本
わが母

とを学んだ。
1年の半分は埼玉県戸田市
の漕艇場オリンピックコ
ースで合宿した。朝5時に
起床し、早朝練習を終えて
から大学に通った。理工学
部は授業の縛りが厳しく、
代は日本がまだ貧しい時

早稲田大学理工学部の入
学式の当日、ボート部に勧
誘されるまま入部した。体
格が良かつたこともあり、
て先輩の目にとまつたのだ

ボート部で自分の限界に挑戦

空き時間を使って学内で個
別練習に励む毎日。練習が
終われば新宿の酒場二ッカ
バーの100円飲み放題に行
ったりし、よく飲んで議論
がいる。今でも趣味でボートを
続けているだけではなく、ホノルルマラ

ソンに出場したり、絵画で
賞を受けるなど元気で多才
なアクティビティアだ。彼
らからは今でも刺激を受け
ている。

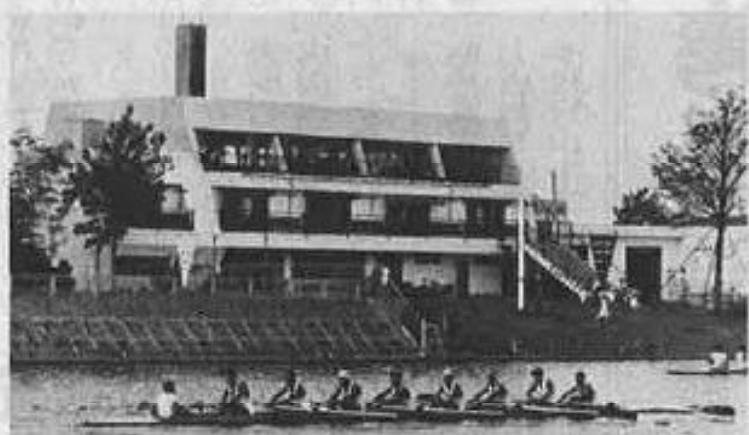
ト部（左から2人目
が本人）
▲ 戸田で練習するボ
ート部員、右は藤川純太氏

早稲田大学

三菱オートリース社長
ふじかわ 純太氏 (64)



と思う。ボート部は理工学部のボート好きが集まって創設された。ボートをぐ
ることが好きな人がいれば、
全日本選手権で優勝を目指す人もいたり、部員の層は幅広かった。それぞれ異なる目標を持つ部員と過ごし、人生に役立つ多くのこ



4年次には主将を務めた。同期にはボート部OBとして活躍している林操君（元日本航空）や石井仁司君（早稲田大

学教授）、片岡冬里君（元新日本製鉄）、後輩にはオリンピックに出場した鳥羽博司君（元日本電産リード）がいる。今でも趣味でボートを続けているだけではなく、ホノルルマラ

ソシに出場したり、絵画で賞を受けるなど元気で多才なアクティビティアだ。彼らからは今でも刺激を受けている。

大学卒業後は三菱商事に入社し、70年から米国駐在前の8年間コーチとして指導した。ボートは自分の限界を乗り越え、新たな限界に挑戦するスポーツだ。自分自身との戦いでもあるからこそ、仲間の存在が暗黙の支えだった。ボートに対する思いが部員それぞれ違った。しかし部員同士が自由闊達に議論し、互いに理解し合って一つの指向性を導き出してきた。ボート部でその大切さ学べたのは、私の人生にとって大きな財産である。